

今津赤十字病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

今津赤十字病院

目 次

○ 今津赤十字病院の基本情報	2
・病院の沿革	
I 現状と課題	4
1 構想区域の現状	
2 構想区域の課題	
3 今津赤十字病院の現状	
4 今津赤十字病院の課題	
II 今後の方針	18
1 地域において今後担うべき役割	
2 今後持つべき病床機能	
3 その他見直すべき点	
III 具体的な計画	22
1 4 機能ごとの病床のあり方について	
2 診療科の見直しについて	
3 その他の数値目標について	
IV その他	24
1 災害救護	
2 各種安全講習会への指導員派遣	
3 今津福祉村（今津校区社会福祉協議会）活動	
4 感染の取り組み	
5 病棟の取り組み	
6 その他研修の受け入れ	

今津赤十字病院の基本情報

医療機関名	今津赤十字病院
開設主体	日本赤十字社
所在地	福岡市西区今津 3 7 7

許可病床数	1 8 0 床 (平成 29 年 7 月 1 日現在)	
(病床の種別)	一般	9 0 床 (地域包括ケア病棟 1 30 床含む)
	療養	3 0 床
	精神	6 0 床
(病床機能別)	回復期	3 0 床 (地域包括ケア病棟 1)
	慢性期	1 5 0 床

稼働病床数	1 8 0 床 (平成 29 年 7 月 1 日現在)	
(病床の種別)	一般	9 0 床 (地域包括ケア病棟 1 30 床含む)
	療養	3 0 床
	精神	6 0 床
(病床機能別)	回復期	3 0 床 (地域包括ケア病棟 1)
	慢性期	1 5 0 床

診療科目 (標榜診療科)
内科・精神科・リハビリテーション科・胃腸科・循環器科・神経内科・放射線科

平成 29 年度 職員数	(平成 29 年 4 月 1 日現在)				
	職員数	医師	看護職員	専門職	事務職員
常勤職員数	187	6	103	40	38
常勤換算数	206.7	9.2	105	40.8	51.7

認定・指定等
健康保険医療機関指定病院・国民健康保険療養取扱指定病院・生活保護医療扶助指定医療機関・難病医療費助成制度に関する指定医療機関・原爆被爆者一般疾病指定医療機関・小児慢性特定疾患治療研究医療機関・指定自立支援医療機関 (精神通院医療)・身体障害者手帳交付の診断医・二次救急医療輪番制病院・医師臨床研修協力病院・日本老年学会研修指定病院・日本高血圧学会研修施設・認知症疾患医療センター協力病院 (九州大学病院・福岡大学病院)

○病院の沿革

昭和	4年	7月	今津海浜病院を買収、今津両用院開設45床にて発足
	10年	4月	第1次増改築65床となる
	12年	9月	第2次増改築105床となる
	22年	4月	結核療養所として再発足
	23年	4月	福岡赤十字病院と改称
	27年	11月	今津赤十字病院と改称
	28年	9月	247床に増床
	54年	4月	第5病棟(33床)を一般病棟に改造認可、結核182床、一般33床となる
		6月	一般病棟基準看護Ⅰ類申請認可
	57年	3月	第3病棟(47床)を一般病棟に改造認可、結核135床、一般60床となる
	58年	8月	内科、神経内科、胃腸科、循環器科、呼吸器科となる
	61年	5月	結核病棟閉鎖
	62年	4月	診療科目に精神科を新設
	63年	1月	病院使用許可及基準看護一般120床特Ⅱ類、精神60床Ⅰ類計180床承認
		2月	老年病センターとして新築オープン
		10月	訪問看護開始
平成	4年	10月	療養型病床郡(30床)を一般病棟(障害者施設等入院)に変更申請・承認
	5年	4月	重度痴呆患者デイケアⅠ承認
	6年	5月	重度痴呆患者デイケアⅡ承認
	7年	1月	阪神・淡路大震災救護班出動
	12年	2月	介護療養型医療施設指定(30床)
	14年	10月	病棟増改築建設工事完成
	17年	3月	福岡県西方沖地震救護班出動
		5月	訪問看護ステーション設置(24時間連絡体制加算承認)
	19年	6月	重度認知症デイケアの休日(日・祭日)稼働
		9月	福岡市介護予防教室受託事業
	20年	4月	障害者施設等入院基本料 許可申請・承認
	23年	4月	東日本大震災救護班出動
	26年	4月	機能強化型訪問看護管理療養費2 許可申請・承認
		5月	地域包括ケア入院医療管理料1 許可申請・承認
	27年	3月	介護療養型医療病床8床を療養病棟入院基本料2へ変更申請・承認
	27年	4月	機能強化型訪問看護管理療養費1 許可申請・承認
	27年	6月	療養型病棟入院基本料2を療養病棟入院基本料1に変更申請・承認(8床)
	28年	2月	地域包括ケア入院医療管理1を地域包括ケア病棟入院料1へ変更申請・承認(一般病床廃止)
			療養病棟入院基本料1を8床から11床へ変更申請・承認
	28年	4月	熊本地震救護班出動
	29年	7月	7月5日からの朝倉市大雨災害健康支援員派遣

I 現状と課題

1、構想区域の現状

1) 人口推移について

(1) 福岡県の人口推移

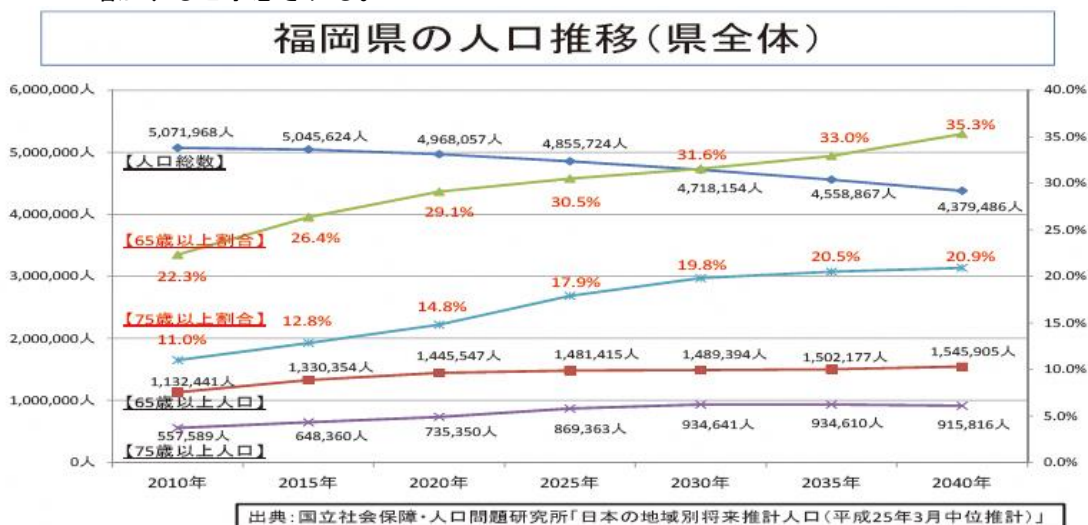
- ・総人口のピークは平成 32 年（2020）年頃、一方で 65 歳以上人口は増加を続けるため、今後、速いスピードで高齢化が進展する。
- ・人口 10 万人対の一般・療養病床の数、及び医師の数は全国平均を上回り、医療資源は豊富である。
- ・自己完結率は救急で 93.2%、くも膜下出血で 89.9%、急性心筋梗塞で 91.7%、悪性腫瘍で 94.2%、小児の入院体制で 94.4%と非常に高く、医療供給体制は、全般的に充実した状況である。

・地域の人口

平成 22（2010）年の福岡県の総人口は、5,072 千人で、平成 37（2025）年には、4,856 千人（対平成 22 年▲4.3%）、平成 52（2040）年には 4,379 千人（同▲13.7%）に減少すると予想される。

一方、65 歳以上の高齢者人口は増加を続け、総人口に占める割合も平成 22（2010）年の 22.3%が、平成 37（2025）年には、30.5%となり、平成 52（2040）年には、35.3%に増加すると予想される。

75 歳以上の後期高齢者人口も増加を続け、総人口に占める割合も平成 22（2010）年の 11.0%が、平成 37 年（2025）年には 17.9%となり、平成 52（2040）年には 20.9%に増加すると予想される。

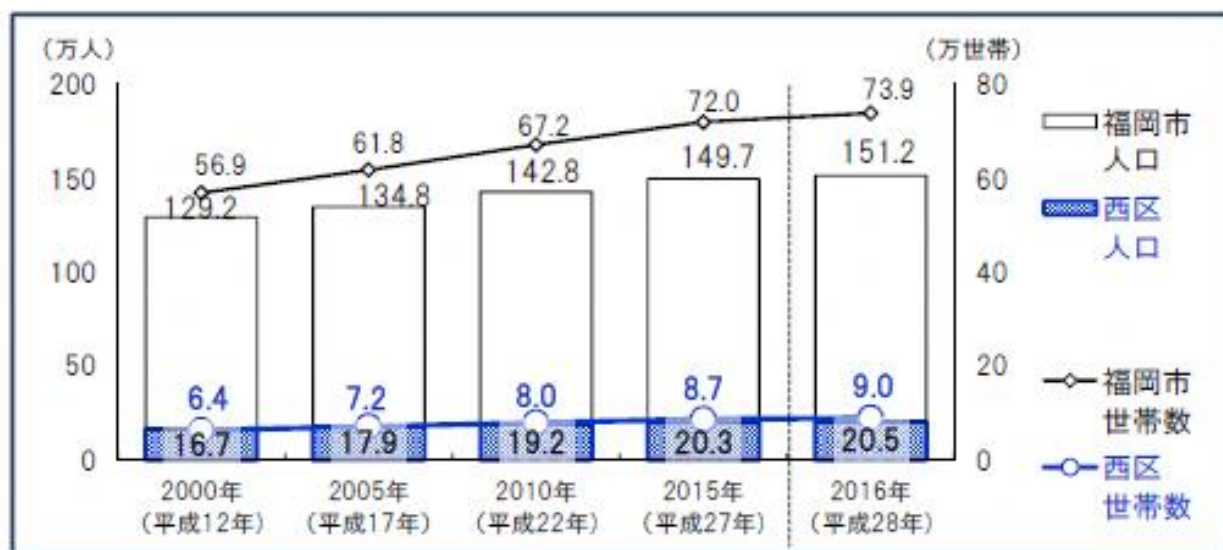


(2) 福岡市・西区の人口と世帯数の推移

人口、世帯数の推移を福岡市全体と西区全体で見ると、人口は、2000 年にあった福岡市全体の人口数は、129.2 万人から、2016 年には、151.2 万人へと約 17%増に対して、福岡市西区全般で見ても、2000 年の 16.7 万人より、2016 年度には、20.5 万人と約 23%増となっている。

また、世帯数で見ると、福岡市全体では、2000 年の 56.9 万世帯に対して 2016 年には、73.9 万世帯と約 30%増に対して、西区についてはそれを上回る約 40%増となっている。

福岡市・西区の人口と世帯数の推移



出典：福岡市西区各校区データ集

(3) 校区の人口・世帯数の推移

今津校区の人口・世帯数については、2000年（平成12年）と2016年（平成28年）と比較すると、人口は、2000年の3,515人から徐々に減り、2016年には、2,884人と約18%の急激な人口減となっている。

また、世帯数を見ると、2000年に1,457世帯あったが2016年には、1,376世帯と81世帯減少している。

世帯数の減少については、高齢化・過疎化による減少も大きな要因ではあるが、この校区が市街化調整区域に指定されていて、新たに住宅が建てられないも世帯数減少の要因である。

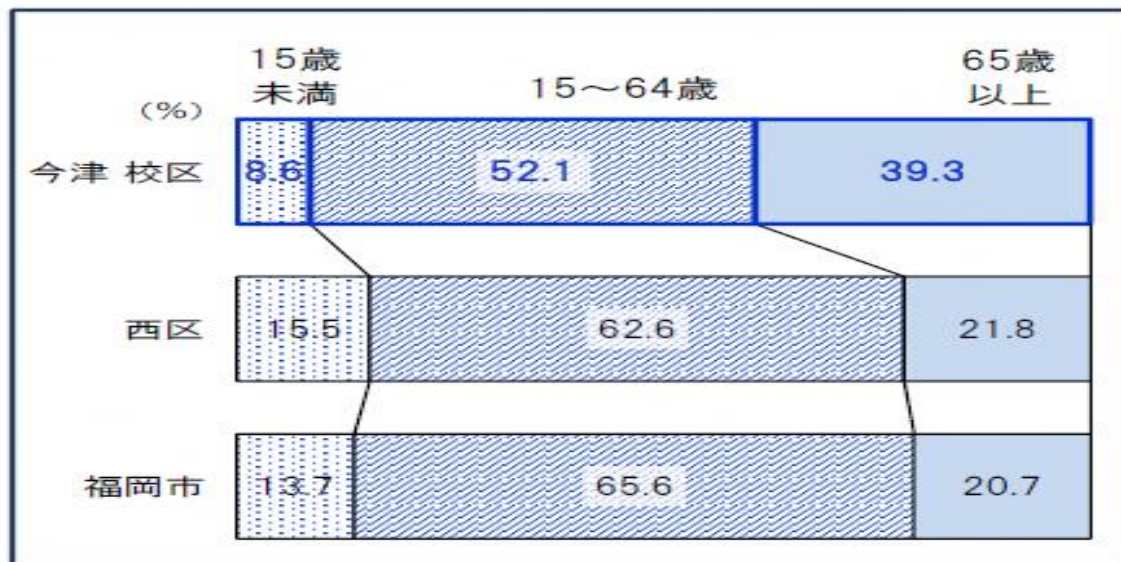
校区の人口・世帯数の推移



出典：福岡市西区各校区データ集

(4) 年代別人口割合（平成28年）

年代別人口割合を福岡市全体、西区全体、今津校区でみると、65歳以上の割合が福岡市全体、西区全体で約20%に対し、今津校区は、約40%との高齢者の割合が高く、過疎化も進んでいる。



出典：福岡市西区各校区データ集

2) 地域の医療需要の推移

(1) 福岡・糸島医療圏の医療施設及び病床数の状況

福岡県内の病院数は、平成26（2014）年10月1日現在で460施設であり、このうち一般病院は400施設、精神科（単科のみ）病院は60施設となっている。

一般診療所は、4,587施設であり、そのうち有床診療所は602施設となっている。

許可病床数は、一般病床が50,305床、療養病床が22,364床、過去5年間で一般病床は、1,656床、療養病床は1,250床減少している。福岡・糸島区域で見ると、一般病床の県全体の30%、療養病床は、県全体の24%を占めています。

人口10万人当たりの許可病床数は、福岡県では、一般病床982.8床、療養病床436.9床と全国平均（一般病床783.1床、療養病床267.2床）を上回っている。福岡・糸島で見ると、一般病床、療養病床共に全国平均を上回っている。

福岡県の許可病床数の状況

（単位：床）

	許可病床数			人口10万人対許可病床数		
		一般病床	療養病床		一般病床	療養病床
全国	1,334,724	995,170	339,554	1,050.3	783.1	267.2
福岡県	72,669	50,305	22,364	1,419.7	982.8	436.9
01 福岡・糸島	20,328	14,942	5,386	1,283.5	943.4	340.1

出典：福岡県地域医療構想

①必要病床数と病床機能報告との比較（福岡県）

福岡県の必要病床数を平成27（2015）年と平成37（2025）年で比較した場合に、高度急性期は、▲811床、急性期は、▲6,653床、回復期は、+12,267床、慢性期は、▲7,711床であり、不足する回復期以外は、病床数が過剰な状況となっている。

福岡県必要病床数と病床機能報告の比較

(単位：床)

	平成37 (2025) 年 必要病床数	平成27 (2015) 年度 病床機能報告	差 引
高度急性期	7, 3 1 7	8, 1 2 8	▲ 8 1 1
急性期	2 1, 3 1 4	2 7, 9 6 7	▲ 6, 6 5 3
回復期	2 1, 1 2 3	8, 8 5 6	+ 1 2, 2 6 7
慢性期	1 5, 6 2 9	2 3, 3 4 0	▲ 7, 7 1 1
合 計	6 5, 3 8 3	6 8, 2 9 1	▲ 2, 9 0 8

出典：福岡県地域医療構想

②必要病床数と病床機能報告（福岡・糸島）

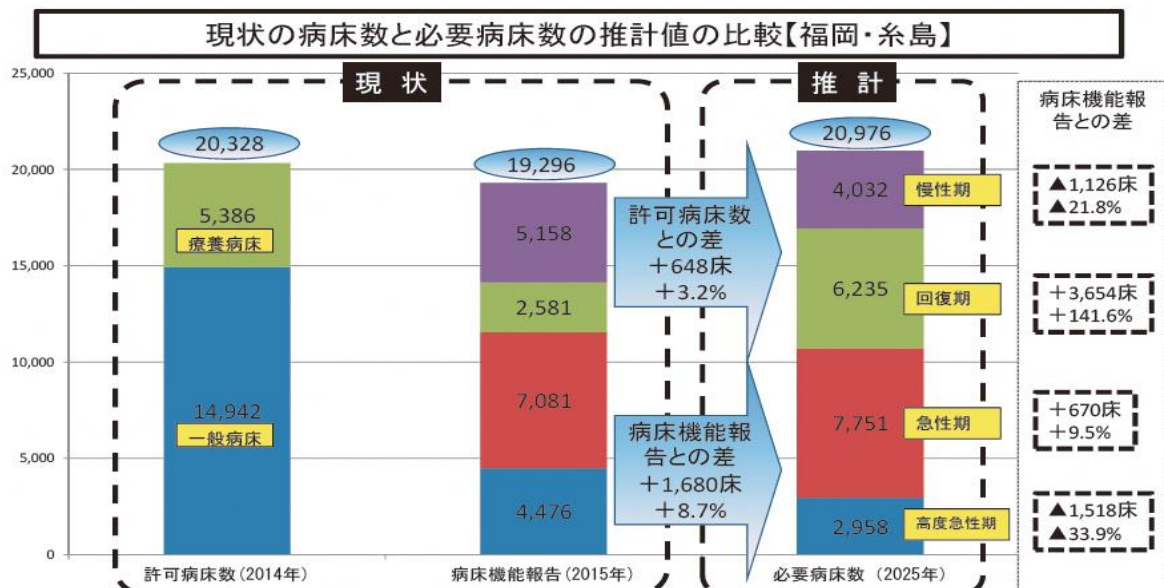
必要病床数と病床機能報告を福岡・糸島区域で比較すると、高度急性期については、670床過剰、慢性期は、1,126床の過剰となっているが、急性期については、670床の不足、回復期については、3,654床の不足している状況となっている。

福岡・糸島必要病床数と病床機能報告

(単位：床)

構想 区域	病床の 機能	必要 病床数 (2025)	病床機 能報告 (2015)	差 引
01 福岡 ・糸島	高度急性期	2, 958	4, 476	▲1, 518
	急性期	7, 751	7, 081	+670
	回復期	6, 235	2, 581	+3, 654
	慢性期	4, 032	5, 158	▲1, 126
	合 計	20, 976	19, 296	+1, 680

出典：福岡県地域医療構想



出典：福岡県地域医療構想

③在宅医療等に関わる医療資源の状況

・平成 37（2025）年の在宅医療等の医療需要

平成 37 年の在宅医療等の需要については、福岡県全体で、83,404 人と推定され、福岡・糸島区域では、26,113 人と約 30%の医療需要が推定される。

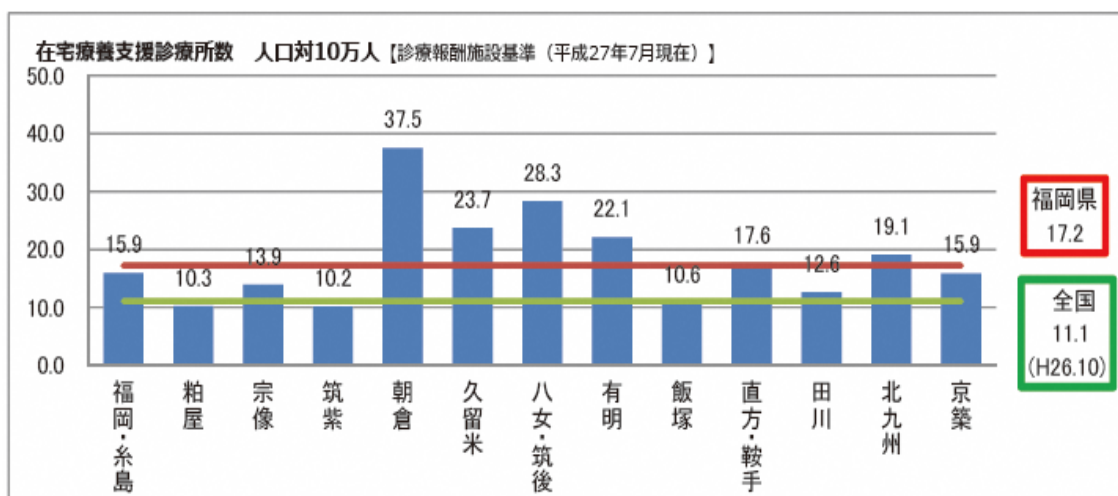
在宅医療等：居宅、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、介護老人保健施設その他医療を受ける者が療養生活を営むことができる場所であって、現在の病院・診療所以外の場所において提供される医療を指しており、現在の療養病床以外でも対応可能な患者の受け皿となることも想定している。

（1日当たりの患者数）

	在宅医療等の医療需要
福岡県	83,404人
01 福岡・糸島	26,113人

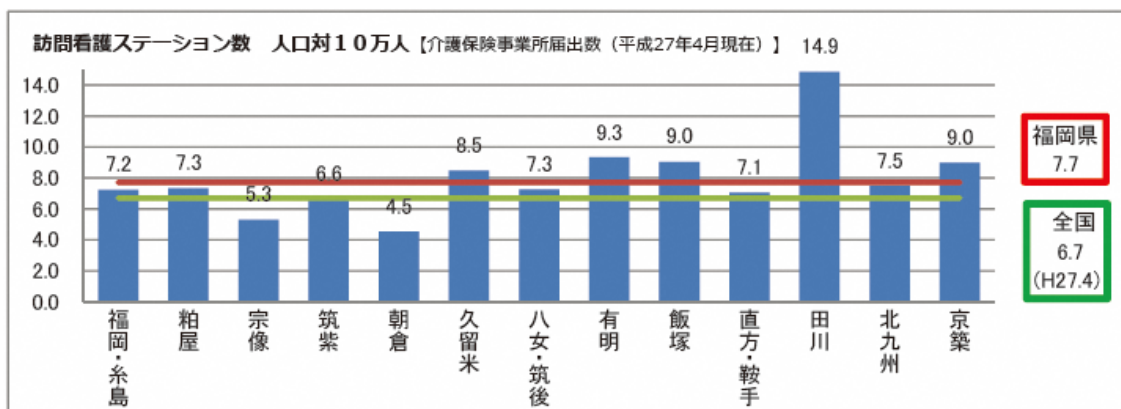
出典：福岡県地域医療構想

- ④在宅療養支援診療所数は 874 施設（平成 27 年 7 月 1 日時点）で、人口 10 万人当たり 17.2 施設となっており、全国平均（11.1 施設）を上回っている。福岡・糸島区域は 15.9 施設であり、全国平均より上回っているが、福岡県より、下回っている状況である。



出典：福岡県地域医療構想

- ⑤訪問看護ステーション数は390施設（平成27年4月1日時点）で、人口10万人当たり7.7施設となっており、全国平均（6.7施設）を上回っている。福岡・糸島区域では、全国平均は、上回っているが、福岡県の平均より下回っている状況である。



出典：福岡県地域医療構想

(2) 傷病別患者数の推計

外来では、平成22（2010）年と比較した場合、平成37（2025）年にかけて、総数で20%程度増加すると推計されている。傷病別では、循環器系の疾患（主に脳血管疾患、虚血性心疾患）筋骨格系の疾患（骨折）の患者が40%～44%程度増加すると見込まれている。入院では、平成37（2025）年にかけて、総数で40%程度増加すると推計されている。傷病別では、特に肺炎、脳血管疾患、骨折の患者が55%～60%程度増加すると見込まれている。一方、妊娠・分娩については22%程度減少すると見込まれている。

(3) 認知症高齢者の状況

今後、高齢者人口が増加する中で、特に75歳以上の高齢者の人口の増加に伴い、認知症高齢者は、増えていくと見込まれている。

平成27（2015）年1月に国が策定した「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の推計を基に、福岡・糸島区域の認知症高齢者数を推計すると、平成22（2010）年では約42千人、平成37（2025）年では約85千人となる。

2. 構想区域の課題（福岡・糸島区域）

1) 病床の機能分化・連携

- (1) 平成27（2015）年度の病床報告の病床数と平成37（2025）年の必要病床数を比較した場合、回復期が3,654床不足する見込みとなっている。
- (2) 回復期病床は、入院医療と在宅医療等をつなぐ重要な役割を果たすことから、地理的な配置も考慮しながら既存の急性期又は慢性期病床からの転換により、回復期病床の確保を図っていくことが必要である。
- (3) 既存の医療資源の機能が十分発揮できるよう、医療機関間の連携や医科・歯科の連携を一層進めていくとともに、将来のあるべき医療提供体制を支える医療従事者の確保に取り組んでいく必要がある。
- (4) 慢性期病床及び在宅医療等の機能分化・連携については、現在の療養病床入院患者の一部について、将来、在宅医療等に対応する患者として必要病床数が推計されていることから、在宅医療、介護施設等での受け入れ能力の向上が求められる。
- (5) 在宅医療等の提供体制の充実や在宅医療・介護の連携強化に取り組んでいくとともに、介護サービスの確保に取り組んでいくことが必要である。

2) 在宅医療等の充実

- (1) 福岡・糸島区域の平成37（2025）年の在宅医療等の医療需要は26,113人/日と推計されている。
- (2) 在宅医療等の医療需要の推計にあたっては、現在の療養病床入院患者の一部について、将来、在宅医療等に対応する患者として必要病床数が推計されていることから、在宅医療、介護施設等での受け入れ能力の向上が求められている。
- (3) 将来のあるべき医療提供体制を実現するためには、在宅医療等の提供体制を充実させていくこと、訪問診療を行う医師、訪問看護師など在宅医療等を支える人材を確保していくことが不可欠である。
- (4) 地域の実績に応じた在宅医療等のあり方について、地域の医療・介護関係者、市町村等との間で十分コンセンサスを得ながら、その地域にふさわしい在宅医療等の提供体制を模索していくとともに、在宅医療と介護の連携を進めていくことが重要である。
- (5) 今後増加が見込まれる認知症高齢者についても、適切に対応していくことが必要である。

3) その他の医療提供に関する事項

- (1) 救急医療
救急医療について提供体制が充実していることは間違いないが、各救急医療機関の機能をいかに維持していくか、メディカルコントロールの充実、小児周産期疾患、精神疾患等に係る救急体制など、課題があることについて認識が必要であり、現状の救急診療体制、特に二次救急体制維持のため、メディカルコントロールのあり方について、医療機関、消防、行政とともに協議していく必要がある。
- (2) 脳血管疾患（脳卒中）・虚血性心疾患（急性心筋梗塞）
救急医療と同様に、提供体制が充実していることは間違いないが、医療の質についてもしっかりコントロールできているか評価をしていくことが必要である。
- (3) 悪性腫瘍（がん）
連携パスの利用が全国平均を下回っており、がん診療の連携体制の一層の充実を図っていく必要がある。
- (4) 糖尿病
現状の提供体制の維持・確保を図りつつ、病床の機能分化・連携を進める必要がある。
- (5) 精神疾患
身体疾患と認知症を併せ持つ患者の治療を行うための精神科以外の医療機関と精神科病院との連携を強化していく必要があり、精神科における一次救急（ソフト救急）の体制整備・充実が望まれる。
- (6) 小児医療・周産期医療
小児・周産期については、提供される医療の内容が一般の大人や高齢者と大きく違うこと、周産期母子医療センターといった拠点があり、構想区域を越えて広域に診療を行っていることなどを踏まえ、一区域に捉われず、広域的な観点から医療提供体制のあり方を考えていくことが重要である。
- (7) 骨折・肺炎
高齢者の誤嚥性肺炎、転倒に伴う骨折の増加が想定されるところであり、予防を含めた対応策について検討していく必要がある。
- (8) 認知症
今後、認知症患者の大幅な増加が見込まれており、これに適切に対応できる体制を構築していくことが重要である。

3. 今津赤十字病院の現状

1) 基本理念

基本理念
私たちは人道・博愛の赤十字精神のもと患者さまに信頼される医療を行います
基本方針
1. 地域医療 2. 全人的医療 3. 医療と福祉の架け橋

2) 職員全体のスローガン

- ・地域に寄り添い信頼されるコミュニティホスピタルとなる
- ・地域住民が気軽に相談できる病院になる
- ・地域に安心感を与える病院になる
- ・地域の高齢者医療・介護・生活を幅広く支える病院になる

3) 届出入院基本料

精神病棟入院基本料	(15:1入院基本料)	(60床)
障害者施設等入院基本料	(10:1入院基本料)	(60床)
地域包括ケア病棟入院料	(1)	(30床)
療養病棟入院基本料	(1)	(15床)
介護療養病床(介護療養型医療施設)		(15床)

4) 患者の推移(平成24度～平成28年度)

	H24	H25	H26	H27	H28
入院延患者数(人)	56,485	57,998	57,695	58,623	60,070
外来延患者数(人)	24,602	24,733	23,406	21,544	21,797
病床稼働率(%)	86.0	88.3	87.8	89.0	91.4
平均在院日数(日)	105.4	100.7	99.8	114.0	108.2
紹介率(%)	29.8	34.4	38.1	45.9	48.1
逆紹介率(%)	91.5	91.3	75.4	101.9	74.1

5) 職員数(平成29年4月1日現在)

平成29年度 職員数					
	職員数	医師	看護職員	専門職	事務職員
常勤職員数	187	6	103	40	38
常勤換算数	206.7	9.2	105	40.8	51.7

6) 特徴

高齢者急性期疾患とリハビリテーション、並びに認知症の診療を核とし、通称「老年病センター」として、老年医療を推進している。

- (1) 地域介護施設との嘱託医契約(5施設)・協力病院契約(16施設)の推進

地域の介護施設の医療支援サポートを行う為に、福岡市西区・糸島市の介護保険施設と嘱託医契約・協力病院の契約を行い、地域医療に貢献している。

嘱 託 医			協 力 病 院		
No.	施設名	契約開始期 日	No.	施設名	契約開始期 日
1	特別養護老人ホーム・大寿園	S54. 4～	1	特別養護老人ホーム・大寿園	S54. 4～
2	特別養護老人ホーム・やすら ぎの郷	H8. 6～	2	特別養護老人ホーム・寿生苑	H11. 4～
3	特別養護老人ホーム・寿生苑	H11. 4～	3	特別養護老人ホーム・マナハウス	H16. 7～
4	国立・福岡視力障害センター	H18. 10～	4	グループホーム・田尻の里	H19. 1～
5	特別養護老人ホーム・美の里	H20. 8～	5	特別養護老人ホーム・美の里	H20. 8～
			6	住宅型有料老人ホーム・スターフィールド	H20. 11～
			7	特別養護老人ホーム・志摩園	H21. 4～
			8	特別養護老人ホーム・富の里（併設施設）	H21. 4～
			9	介護老人保健施設・松寿苑	H21. 9～
			10	介護老人保健施設・春風	H23. 2～
			11	特別養護老人ホーム・みなかぜ	H26. 6～
			12	グループホーム・さくらの家	H26. 8～
			13	サービス付き高齢者向け住宅・さくらテラス	H27. 11～
			14	特別養護老人ホーム・いと楽し	H28. 6～
			15	特別養護老人ホーム・今津創生園	H29. 4～
			16	養護老人ホーム・今津創生園	H29. 4～

(2) 高度急性期基幹病院との連携パス

脳卒中専門医がいる医療機関として、高度急性期基幹病院との連携を行う為、基幹病院（7病院）連携パスの登録をしており、地域包括ケア病棟・障害者病棟での治療継続・リハビリを行っている。

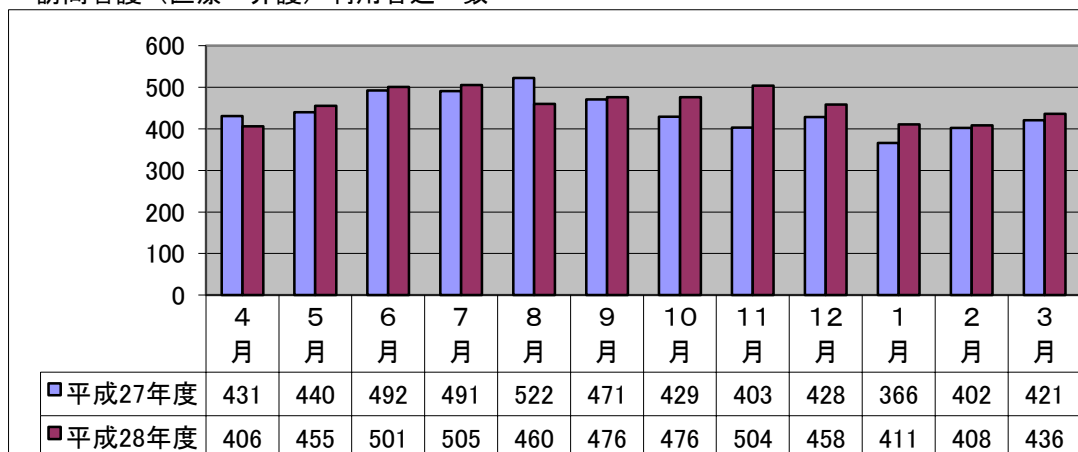
基幹病院	脳卒中	大腿部頸部骨折
福岡赤十字病院	平成 20 年 4 月 1 日	
九州医療センター	平成 20 年 6 月 1 日	平成 23 年 7 月 1 日
浜の町病院	平成 22 年 2 月 1 日	
福岡記念病院	平成 25 年 2 月 1 日	
九州中央病院	平成 25 年 4 月 1 日	
福岡大学病院	平成 26 年 2 月 1 日	
福岡市民病院	平成 26 年 5 月 1 日	

(3) 機能強化型訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所を併設

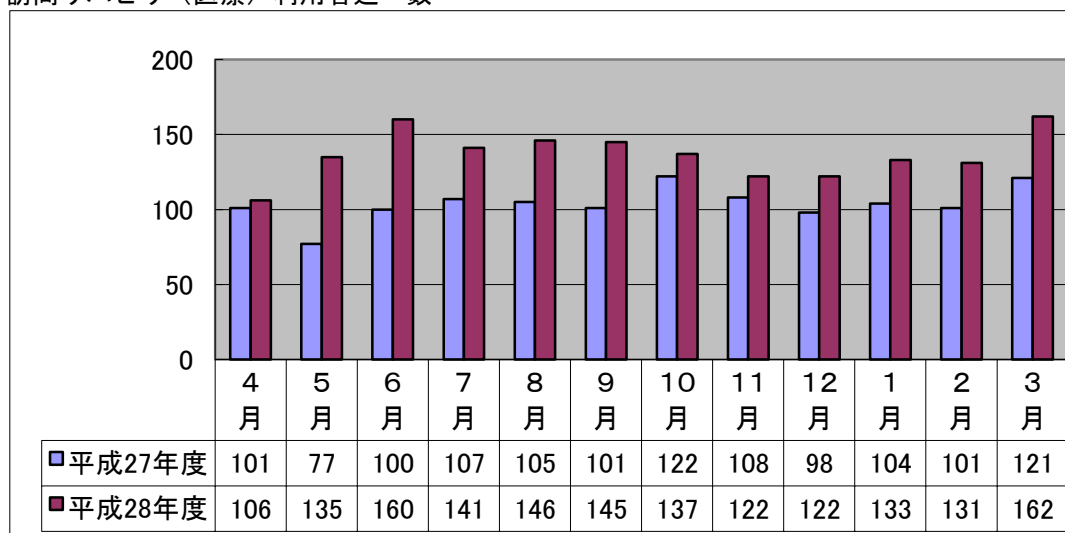
- ・訪問看護ステーションは、平成 26 年 4 月より、機能強化型訪問看護管理療養費（2）を取得。平成 26 年 5 月より、機能強化型訪問看護管理療養費（1）を取得し、地域の在宅支援診療所と共同であらゆる年齢層の在宅患者の支援を行っている。

訪問エリアは、福岡市西区（一部早良区）、糸島市全域をカバーしている。登録利用者は 100 人を超している。平成 29 年 3 月実績で福岡市への訪問 55%、糸島市への訪問 45% となっている。

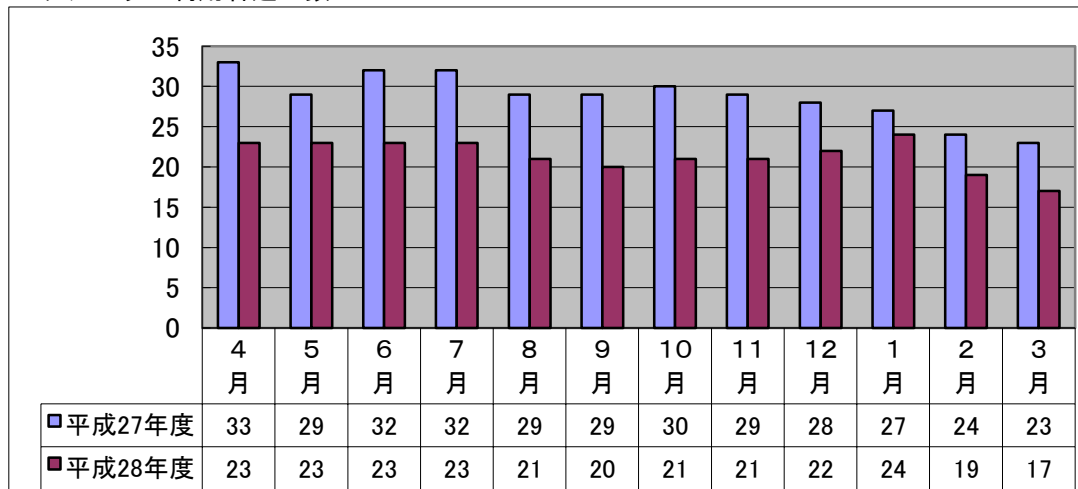
訪問看護（医療・介護）利用者延べ数



訪問リハビリ（医療）利用者延べ数



ケアプラン利用者延べ数



(4) 精神疾患について

① 精神科病棟は認知症専門で、外来では、重度認知症デイケアを実施している。

・ 重度認知症デイケア（医療保険）

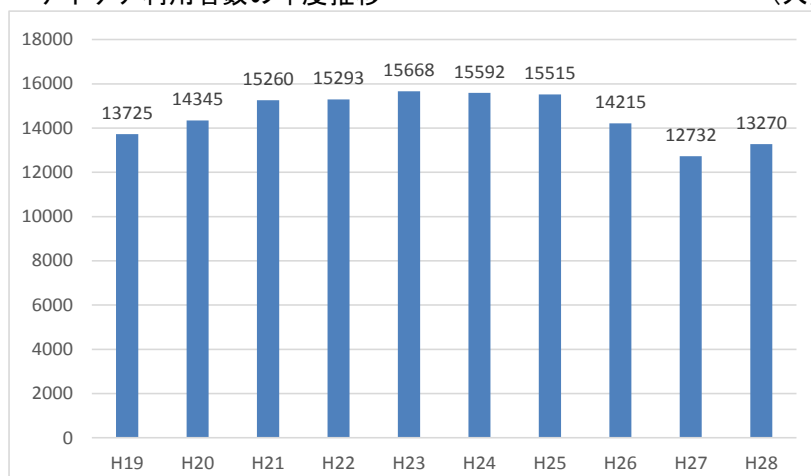
介護保険ではなく、医療保険を使った重度認知症デイケアのプログラムである。

月曜～日曜日年間 361 日の利用が可能で、適用としては、認知症の病名があり、認知症の自立度がMレベルの方が対象となっている。

国の政策として、地域包括ケアシステムの構築をめざし、入院医療中心から地域生活中心への基本理念のもとに認知症対策を行っている。利用者のその人らしさを大切に、安心と充実感を持ち居心地よく過ごせるデイケアをめざしてユニットケアを実施している。重度認知症患者デイケアは、地域のニーズや役割に貢献し、家族・医療機関・コメディカルなどとの連携を行い、利用者が安心して在宅生活が継続できる支援を地域と共に目指していかなければならないと考えている。

デイケア利用者数の年度推移

(人)



② 全職員が、「認知症サポーター」になることを目指し、院内外で養成講座を実施

開催日・講座名	場所	内容・担当者	参加
28.1.29 認知症サポーター養成講座	院 内	職員対象の養成講座 担当 精神保健福祉士 参加者	47 人
28.8.2 認知症サポーター養成講座	院 内	職員対象の養成講座 担当 精神保健福祉士 看護師	20 人
28.10.14 認知症サポーター養成講座	院 内	職員対象の養成講座 担当 精神保健福祉士 看護師	48 人
28.11.24 認知症サポーター養成講座	野の花学園	今津校区住民対象の養成講座 担当 精神保健福祉士 西保健所 保健師	24 人
29.8.2 認知症サポーター養成講座	院 内	職員対象の養成講座 担当 精神保健福祉士 看護師	26 人
		参加者合計	165 人

③もの忘れ外来・もの忘れ相談の実施

- ・当院のもの忘れ外来は、精神科医師の行う外来として、地域に先駆けて、昭和 63 年度より開始する。かかりつけ医や他の病院からのアルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症等の専門治療や鑑別依頼が多く、必要に応じて入院治療や重度認知症デイケアに繋いでいる。
- ・地域より「もの忘れ」についての受診相談が多くなり、平成 20 年度より、相談窓口を設置。窓口には精神保健福祉士を配置し、受診相談のみならず、認知症の介護や介護保険相談等、行政・ケアマネージャーと連携しながら対応を行っている。

	もの忘れ相談	もの忘れ外来
平成 26 年度	951 人	345 人
平成 27 年度	882 人	292 人
平成 28 年度	669 人	255 人

④入院患者の「院内デイケア」（精神科作業療法 1 日 2 単位）の実施

⑤施設基準、認知症ケア加算 1、精神科身体合併症管理加算等の取得

⑥精神科訪問看護の実施

⑦認知症のリハビリに先駆的に取り組み、身体合併症の予防に努めている。

⑧認知症に関して、福岡市西保健所や福祉施設と連携し、事例検討会を行っている。

開催日・講座名	場所	内容・担当者	参加
28.7.21 西区居宅介護支援事業所連絡 会研修会	さいとぴあ	「認知症の方と家族を地域、在宅で支える 介護事業所の取り組み」 パネリスト 精神保健福祉士	124 人
28.8.30 第6地区民生委員児童委員と ケアマネとの意見交換会	さいとぴあ	「認知症の方が、健康セミナーに参加した 後、消費者被害にあった事例」 コメンテーター精神保健福祉士	45 人
28.9.15 糸島市ボランティア会員研修	あごら	「認知症の基礎知識および認知症の方との接 し方」 講師 精神保健福祉士	20 人
28.9.21 民生児童委員、福祉委員研修 会	波多江公民 館	「認知症の理解と地域の関わりについて」 講師 精神保健福祉士	21 人
28.9.23 個別支援会議	下山門団地 集会場	参加者 精神保健福祉士	15 人
28.12.14 明日から活かせる認知症ケア 研修会	今津赤十字 病院	講師 看護師 精神保健福祉士	27 人
29.3.16 圏域連携会議	いと楽し	「明日から活かせる認知症ケア」 参加 看護副部長 看護師 精神保健福祉士	55 人

(5) 地域住民に対する健康教室に講師を派遣している

開催日・講座名	場所	内容・担当者	参加
28.6.6 第13回今津いきいき健康講 座	今津公民館	「認知症とその予防」「脳トレ」 担当 医療社会事業係長	23 人
28.6.14 玄洋公民館主催高齢者教室	玄洋公民館	「夏に向けての健康法」 講師 看護部長	25 人
28.10.25 元岡公民館主催高齢者教室	元岡公民館	「熊本地震の救護に参加して」 講師 副院長 看護師	37 人
28.11.10 泉地区「笑笑会」健康教室	泉東集会場	「感染症について」 講師 院長	37 人
28.12.5 第14回今津いきいき健康講 座	今津公民館	「知っておきたい認知症講座」 講師 事務部長・精神保健福祉士 「認知症予防、介護予防教室」 講師 リハ課長	26 人
28.12.17 玄洋公民館主催地域コミュニ テイ講座	玄洋公民館	「はじめての介護教室」 講師 看護師	23 人

4. 今津赤十字病院の課題

- 1) ポストアキュート、サブアキュートの入院患者をスムーズに受け入れ在宅に帰すには、どの病棟機能が地域において適しているかを再検討する。
- 2) 当院が位置する福岡市西区今宿・周船寺ブロックには、救急病院が少ない為、当院の時間外、休日の診療体制を検討する必要がある。
- 3) 病院内の I T 化の遅れにより、電子カルテ化が実施できていない。在宅医療・地域連携を推進するにあたり、情報共有化の為、I T 化が必要となっている。
- 4) 当院まで、直通のバス等の公共交通機関がなく、アクセスに課題がある。
徒歩で 10 分程度の距離に最寄りのバス停があるが、当院の利用対象となる高齢者にとっては、身体的な負担が大きい。定時に当院所有車両による送迎運行を行っているが、本数も限られており、今後改善が必要である。

Ⅱ. 今後の方針

○福岡・糸島構想区域の課題に対して、当院は、次の方針で取り組み、地域医療に貢献する。

- ・不足が見込まれている回復期の病床に対しては、現在稼働している地域包括ケア病棟をフルに活用し、ポストアキュート機能やサブアキュート機能で受け入れた入院患者を在宅医療に繋いでいく。
- ・地域の医療機関や介護施設と連携を取り、当院が持っている障害者施設等入院病棟に、在宅・急性期病院等や介護施設において長期の療養が必要になった重度の障害者や難病等の患者を受け入れ、専門性をいかした診療を行っていく。
- ・地域における在宅医療の受け入れ能力を向上させる為、機能強化型訪問看護ステーションと居宅介護支援事業を併設、また、難病患者等のレスパイト入院を積極的に受け入れ、地域の在宅医療を積極的に支援していく。
- ・地域の介護施設の受け入れ能力を向上させる為に、当院が嘱託医契約・協力病院契約を推進して介護施設を支援していく。
- ・今後、増加が見込まれている認知症患者についての対応は、まず、もの忘れ相談窓口で支援を行い、通院医療が必要な方には、もの忘れ外来受診を勧め、重度認知症デイケアに繋いでいく。症状の進行により、認知症専門病棟での入院が必要な場合には、リハビリ（院内デイケア等）を導入した入院加療を行い、在宅医療へ繋げていく。また、地域に向けた取り組みとして、行政と協力して行う講演会や認知症サポーター養成講座等の取り組みを積極的に行っていく。
- ・慢性期の療養病棟については、当院では、現在、医療療養病床と介護療養病床を病棟内に併用した運用を行っているが、今後、地域包括ケアシステムの一翼を担う為に、在宅復帰に取り組む機能強化型療養病棟を目指し、計画的な病床の変更を行っていく。
- ・在宅医療従事者の育成ができる場を提供し、社会へ輩出していく。
医師の育成：協力型臨床研修病院として、地域医療分野での研修医を受け入れる。
看護師の育成：看護大学や高等学校からの実習を受け入れ、在宅領域（訪問看護）を含めた実習受を行っている。
学校の職場体験：地域の中学校や高等学校からの職場体験を積極的に受け入れる。

以上、当院の持っている機能を十分に発揮し、地域医療に貢献できる取り組みを行う。

1. 地域において今後担うべき役割

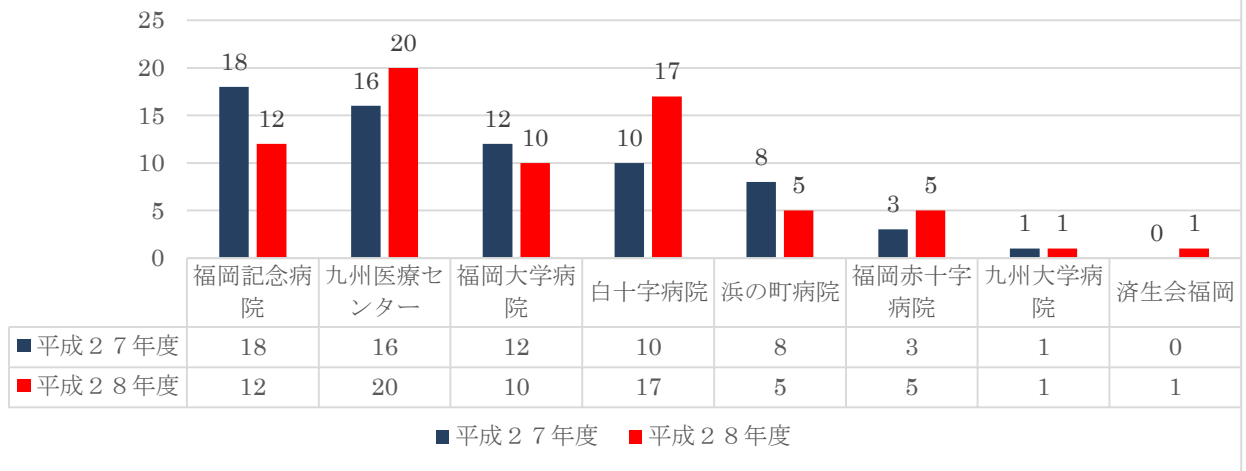
- 1) 2次救急医療機関として、サブアキュートの患者を時間内・時間外を問わず、スムーズに受け入れる。

紹介元別件数

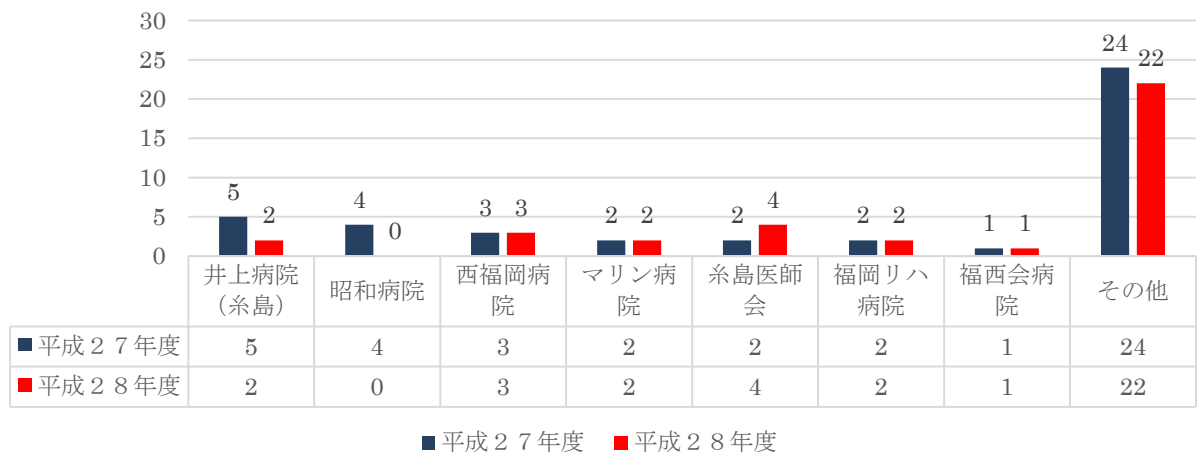
(人)

	急性期 病院	特養	老健	開業医	グループホーム	有料老人	自宅	合計
平成 26 年度	119	163	1	41	0	8	54	386
平成 27 年度	111	148	4	62	1	9	65	400
平成 28 年度	107	146	1	90	3	5	56	408

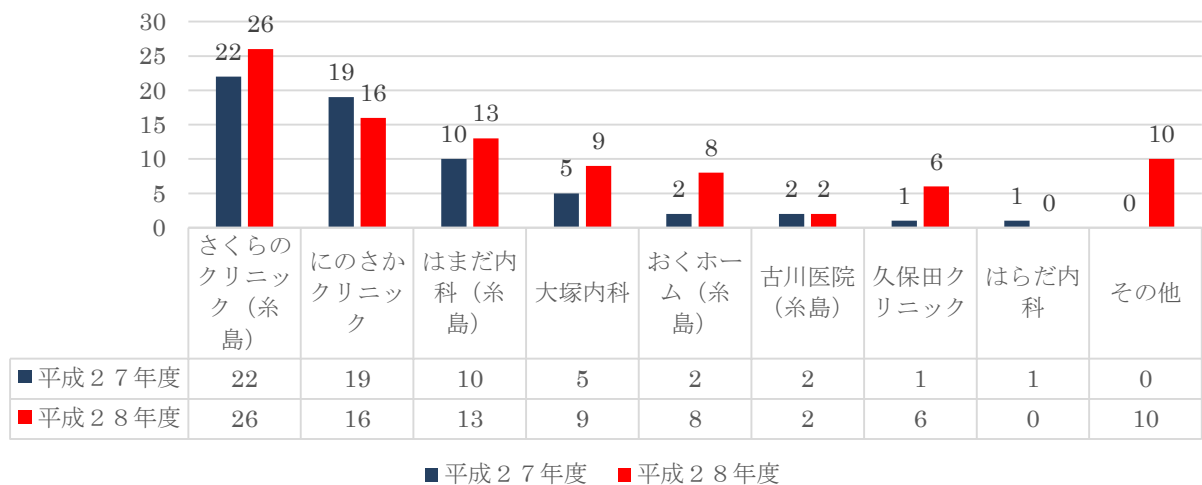
高度急性期病院からの紹介



急性期病院からの紹介



開業医からの紹介



2) 受け入れた入院患者を地域の医療機関や介護施設などと連携し在宅等に繋いでいく。

退院先一覧

(人)

	自宅	特養	老健	有料ホーム等	急性期病院	慢性期病院等	合計
平成 26 年度	95	137	8	17	42	11	310
平成 27 年度	138	133	11	16	38	23	359
平成 28 年度	152	128	8	12	40	15	355

3) 地域の在宅医療を支援するために、難病患者等のレスパイト入院の積極的な受け入れを行う。

レスパイト入院受入件数

	入院受入 件数
平成 27 年度	70
平成 28 年度	76

- (1) 開業医・訪問看護ステーション・ケアマネージャーからの要望が高い神経難病患者を対象としたレスパイト入院を行っていく。このレスパイト入院は、在宅医療を積極的に支援する事にもなり、できるだけ、患者や家族の希望される日程を最大限優先できる受け入れ体制を整える。特に人工呼吸器を使用している ALS 患者の受け入れが可能な病院として地域に貢献していく。

4) 在宅復帰に向けての支援体制の充実

社会復帰支援内容別件数

(人)

	介護保険等	転院相談等	経済的	人権	その他	合計
平成 26 年度	3,860	654	43	9	42	4,608
平成 27 年度	2,443	842	33	0	40	3,358
平成 28 年度	2,463	631	21	12	87	3,214

- 5) 地域の在宅医療を充実させていくため、機能強化型訪問看護ステーションを維持し、活動の場を広げていく。
- 6) 増えてくる事が予想されている認知症患者へ幅広く対応していくために、認知症専門病棟の充実、重度認知症デイケア、もの忘れ外来の充実を行う。
- (1) 行政と共同して地域と住民に向けて「認知症対策について」の啓蒙活動を行う。
- (2) 地域住民と一体となり、健康増進のため、公民館等で健康講演を積極的に実施する。
- 7) 地域住民が自らの健康管理（セルフケア）を行うために、生活習慣病予防健診（協会けんぽ等）や人間ドック、企業健診等を推進・強化する。

2. 今後持つべき病床機能

- 1) サブアキュートやポストアキュートの入院患者を迅速に受け入れ、在宅に繋ぐ地域包括ケア病棟（1）の機能を維持していく。
- 2) 高齢化に伴い、認知症患者が増加する。その認知症患者に対しても安心して内科的治療やリハビリができる等、認知症患者の対応ができる医療機関として病床機能を維持していく。
- 3) 介護施設への入所や急性期病院等での長期治療が難しい重度の障害者や、神経難病患者等の長期療養を受け入れるために、障害者施設等病棟を維持していく。（近隣で、障害者等入院病棟のある病院は、当院のみ）

- 4) 現在療養病棟は、介護療養病棟の中に医療療養病床を併設しているが、段階を追って、医療療養病棟へ変更し、在宅復帰機能強化を推進する病床機能を目指す。

3. その他見直すべき点

- 1) 地域のかかりつけ医との連携を強化（顔の見える連携の実施）
- 2) 病診・病病連携だけではなく、介護施設やケアマネージャーとの連携強化（広報活動の実施）
- 3) 福岡県難病ネットワークとの連携によるレスパイト入院の受け入れ
当院には、神経難病を対象とした障害者等入院病棟があることから、九州大学病院に事務局がある神経難病ネットワークと連携を行い、神経難病で人工呼吸器を使用している患者のレスパイト入院を受け入れる体制を整える。

難病ネットワーク受入件数

	件数
平成28年度	1
平成29年度	2

Ⅲ 具体的な計画

1. 4 機能ごとの病床のあり方について

	現在 (平成 28 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期	0	→	0
急性期	0		0
回復期	30		30
慢性期	150		150
(合計)	180		180

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017 年度	介護療養病棟（30床）の中に併設している医療療養病床（1）を徐々に増やしていく。	介護療養病床 15 床 医療療養病床（1） 15 床にする。	
2018 年度	介護療養病棟のベースの届出を医療療養病棟ベースの届出に変更する。医療療養病棟の中に併設する介護療養病床を徐々に減らしていく。	医療療養病棟（1）の医療区分 2 以上の患者数が病棟全体で 8 割以上になった時点で併設している介護療養病床を無くし全て医療療養病床に変更する。	
2019～2020 年度	医療療養病棟（1）を全て医療療養病床に変更し在宅復帰機能強化加算の取得に取り組む。	施設基準の在宅復帰率等に取り組み在宅復帰機能強化加算を取得する。	
2021～2023 年度	医療療養病棟（1）の在宅復帰機能強化型加算算定の病棟として、急性期病院の受け皿となる。		

2. 診療科の見直しについて

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025 年度)
維持	内科・精神科・リハビリテーション科・胃腸科・循環器科・神経内科・放射線科	→	内科・精神科・リハビリテーション科・胃腸科・循環器科・神経内科・放射線科
新設	—	→	
廃止		→	—
変更・統合		→	

3. その他の数値目標について

(2025 年数値目標)

項目名	数値目標
病床稼働率	96%
紹介率	50%
逆紹介率	90%
人件費率	67.7%
医業収益に占める人事育成にける費用の割合	0.2%

※当院が地域医療や地域包括ケアシステムに貢献し、経営安定を図るために必要な病床数

- ・地域包括ケア病棟 30床 が必要

理由) 当院の校区には、急性期からの受け皿である地域包括ケア病棟がなく、在宅や地域の介護施設からの受け皿にも対応していく為には、上記病床数が必要となる。
(在宅復帰率 83% 平成 29 年 9 月時点)

- ・障害者病棟 60床 が必要

理由) 短期入院や透析患者を対象とした障害者病棟は、西区にはあるが、難病患者(呼吸器を使用する方を含む)を長期の加療・リハビリを行う病床はなく、上記病床数が必要となる。

- ・精神科病棟 60床 が必要

理由) 認知症疾患センターである九州大学病院・福岡大学病院の協力病院として、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症等様々な認知症疾患への対応を行っており、開業医や介護施設からの急な入院依頼にも対応していく為には、上記の病床数が必要となる。

- ・療養病棟 30床 が必要

理由) 介護と医療を併用した病棟で運営しているが、今後は、在宅復帰を目指した機能強化型の医療療養病棟に変更していくために上記病床が必要となる。

Ⅳ その他

1. 災害救護

当院は、日本赤十字社の病院であり、災害時の救護活動は社の使命でもある。当院においては、非常災害時に対応するため、医師・看護師を含む救護員6名から成る救護班2個班を常時編成している。

また、災害時に備えて、例年、福岡県・福岡市合同防災訓練、日赤福岡県支部主催の災害救護訓練に積極的に参加している。

なお、平成28年4月発生した熊本地震災害及び平成29年7月発生した九州北部豪雨災害における救護班（員）派遣状況は、次のとおり。

1) 熊本地震に伴う今津赤十字病院救護班（員）派遣状況

順	形態	派遣先	要請元	日程	日数	派遣救護員数（人）				合計
						医師	看護師	主事	その他	
1	医療救護班	益城町総合運動公園	福岡県支部	4/16～ 4/18	3	1	3	2		6
2	病院支援	熊本赤十字病院	本社医療事業推進本部	4/25～ 4/30	6		2			2
3	病院支援	熊本赤十字病院	本社医療事業推進本部	4/29～ 5/4	6		1			1
4	病院支援	熊本赤十字病院	本社医療事業推進本部	5/7～ 5/12	6		2			2
5	病院支援	熊本赤十字病院	本社医療事業推進本部	5/23～ 6/5	14		1			1
6	健康支援	熊本県阿蘇郡西原村	福岡県支部経由本社医療事業推進本部	6/10～ 6/15	6		2			2
7	健康支援	熊本県阿蘇郡西原村	福岡県支部経由本社医療事業推進本部	6/17～ 6/22	6		2			2
合 計						1	13	2		16

2) 九州豪雨災害に伴う今津赤十字病院救護員派遣

順	形態	派遣先	要請元	日程	日数	派遣救護員数（人）				合計
						医師	看護師	主事	その他	
1	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/14	1		2			2
2	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/15～ 16	2		2			2
3	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/16～ 17	2		2			2
4	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/17～ 18	2		2			2
5	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/18～ 19	2		2			2
6	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/19～ 20	2		2			2
7	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/20～ 21	2		2			2
8	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/21～ 22	2		2			2
9	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/22～ 23	2		2			2
10	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	7/23～ 24	2		2			2
11	健康支援 （こころの ケア）	朝倉生涯学習 センター	福岡県支部	8/14	1		2			2
合 計							22			22

2. 各種安全講習会への指導員派遣

日本赤十字社では、救急法・幼児安全法・健康生活支援の各種安全講習会を開催しており、当院においても、指導員の派遣及び養成を積極的に行っている。

特に、高齢者の介護等を対象とする健康生活支援は、地域における地域包括ケアシステムの一翼を担う重要な支援活動の一つとして、地域住民より期待されている。

なお、昨年度における当院の指導員派遣の実績は、次のとおり。

1) 平成 28 年度救急法指導員派遣者

派遣者職種	派遣者数 (人)	派遣日	派遣先	受講者数 (人)
理学療法士	1	平成 28 年 5 月 11 日 (水)	福岡県立スポーツ科学情報センタ ー	110
看護師	1	平成 28 年 5 月 24 日 (火)	福岡県立スポーツ科学情報センタ ー	100
介護福祉士	1	平成 28 年 5 月 25 日 (水)	福岡県立スポーツ科学情報センタ ー	120
看護師	1	平成 28 年 6 月 7 日 (火)	福岡県立スポーツ科学情報センタ ー	110
介護福祉士	1	平成 28 年 8 月 18 日 (木)	福岡赤十字病院	40
看護師	1	平成 28 年 12 月 3 日 (土)	日本赤十字社福岡県支部	40
介護福祉士	1			
介護福祉士	1	平成 29 年 2 月 18 日 (土)	日本赤十字社福岡県支部	40
介護福祉士	1	平成 29 年 3 月 9 日 (木)	日本赤十字社福岡県支部	40
合計	9			600

2) 平成 28 年度幼児安全法指導員派遣者

派遣者職種	派遣者数 (人)	派遣日	派遣先	受講者数 (人)
看護師	1	平成 28 年 5 月 10 日 (火)	東区香椎東公民館	20
看護師	1	平成 28 年 5 月 17 日 (火)	小郡市シルバー人材センター (小郡市)	15
看護師	1	平成 28 年 5 月 23 日 (月)	宇美町子育て支援センターゆうゆう (糟屋郡)	20
看護師	1	平成 28 年 6 月 15 日 (水)	やめっこ未来館 (八女市)	20
主事	1	平成 28 年 6 月 16 日 (木)	やめっこ未来館 (八女市)	21
看護師	1	平成 28 年 6 月 23 日 (木)	南部保健センター (久留米市)	20
看護師	1	平成 28 年 6 月 30 日 (木)	大牟田市市民活動等多目的交流施設 (大牟田市)	30
看護師	1	平成 28 年 7 月 12 日 (火)	生涯学習センター (筑紫野市)	20
看護師	1	平成 28 年 7 月 21 日 (木)	めくばーる健康福祉館 (朝倉郡)	10
看護師	1	平成 28 年 8 月 8 日 (月)	福岡市南区日佐公民館	20
看護師	1	平成 28 年 9 月 8 日 (木)	ひまわり館東野 (小郡市)	25
看護師	1	平成 28 年 9 月 15 日 (木)	かすやこども館 (糟屋郡)	20
看護師	1	平成 28 年 9 月 22 日 (木)	日本赤十字社福岡県支部	30
看護師	1	平成 28 年 10 月 6 日 (木)	筑紫野市生涯学習センター (筑紫野市)	20
看護師	1	平成 28 年 10 月 14 日 (金)	久留米赤十字会館 (久留米市)	20
主事	1	平成 28 年 10 月 17 日 (月)	久留米赤十字会館 (久留米市)	20
看護師	1	平成 28 年 10 月 25 日 (火)	めくばーる健康福祉館 (朝倉郡)	10
看護師	1	平成 28 年 11 月 20 日 (日)	純真短期大学	28
看護師	1	平成 28 年 11 月 23 日 (水)	純真短期大学	28
看護師	1	平成 28 年 11 月 28 日 (月)	福岡こども短期大学	30
看護師	1	平成 29 年 1 月 26 日 (水)	かすやこども館 (糟屋郡)	20
看護師	1	平成 29 年 2 月 7 日 (日)	精華女子短期大学	60
合計	22			507

3) 平成 28 年度健康生活支援指導員派遣

派遣者職種	派遣者数 (人)	派遣日	派遣先	受講者数 (人)
看護師	1	平成 28 年 6 月 8 日 (水)	糸島市健康福祉センターあごら	35
看護師	1	平成 28 年 7 月 21 日 (木)	福岡市市民福祉プラザ	20
看護師	1	平成 28 年 7 月 25 日 (月)	オーヴァルホール (宗像市)	20
看護師	1	平成 28 年 7 月 26 日 (火)	オーヴァルホール (宗像市)	20
看護師	1	平成 28 年 8 月 2 日 (火)	久留米赤十字会館 (久留米市)	30
看護師	1	平成 28 年 8 月 3 日 (水)	日本赤十字社福岡県支部	30
看護師	1	平成 28 年 8 月 23 日 (火)	日本赤十字社福岡県支部	46
看護師	1	平成 28 年 8 月 26 日 (金)	日本赤十字社福岡県支部	46
看護師	1	平成 28 年 9 月 9 日 (金)	オアシス篠栗 (糟屋郡)	10
看護師	1	平成 28 年 9 月 21 日 (水)	筑紫野市山口区公民館 (筑紫野市)	25
看護師	1	平成 28 年 9 月 28 日 (水)	金丸校区コミュニティセンター (久留米市)	40
看護師	1	平成 28 年 10 月 1 日 (土)	むさしヶ丘公民館 (筑紫野市)	30
看護師	1	平成 28 年 10 月 19 日 (水)	山本校区コミュニティセンター (久留米市)	40
看護師	1	平成 28 年 10 月 28 日 (金)	日本赤十字社福岡県支部	20
看護師	1	平成 28 年 11 月 5 日 (土)	糸島市健康福祉センターあごら	15
看護師	1	平成 28 年 11 月 8 日 (火)	糸島市健康福祉センターふれあい	15
看護師	1	平成 29 年 1 月 11 日 (水)	奈良屋ふれあいネットワーク	30
合計	17			472

3. 今津福祉村（今津校区社会福祉協議会）活動

昭和45年今津校区住民と福祉施設が共同で組織された今津福祉村は、地域における福祉を中心とした活動を積極的に行い、福祉の心を育てるまちづくりを実践している。当院は、校区の9つの施設からなる施設部会を通じて、様々な地域福祉活動を展開している。昨年度の活動実績は次のとおり。

平成28年度 今津福祉村活動報告			
実施日	事業名	会 場	事業内容・議題等
4月20日(水) 15時～	第1回施設部会	視力センター	①平成27年度事業・会計報告 ②平成28年度事業計画・予算 ③施設部会親善球技大会について など
5月27日(金)	施設部会 親善球技大会	スポーツ福岡	①施設部会親善球技大会(ボウリング) 参加者134名(選手89名:応援等45名) ※当番施設:川添記念病院
5月15日(日)	ラブアース クリーンアップ2016	今津海岸・松林	今津海岸等清掃
6月22日(水) 15時～	第2回施設部会	視力センター	①施設部会親善球技大会報告 ②第43回今津福祉村納涼盆踊り大会について など
8月17日(水)	第43回今津福祉村 納涼盆踊り大会	松濤園運動場	①第43回今津福祉村納涼盆踊り大会 (来場者数:スタッフ含め約600名)
8月24日(水) 15時～	第3回施設部会	視力センター	①第43回今津福祉村納涼盆踊り大会収支報告・反省 ②今津人形芝居について(10/16さいとぴあ)
10月26日(水) 15時～	第4回施設部会	視力センター	①今津校区ふれあい文化祭(11/5)について ②施設部会研修会について(2/9今津特別支援学校担当) ③第44回今津福祉村納涼盆踊り大会の開催について など
12月21日(水) 15時～	第5回施設部会	視力センター	①平成29年度施設部会事業計画(案)について ※連絡事項:施設部会研修会について
2月9日(木) 10時～	施設部会研修会	今津特別支援学校	当番施設:今津特別支援学校
2月22日(水) 18時～	第6回施設部会	市六	①平成29年度の事業運営確認 (引き続き意見交換会)

4. 感染の取り組み

- 1) 院内感染チーム（ICT）は、週1回の院内ラウンドを行うだけでなく、近隣介護施設にて、感染症発症時に、施設を訪問し、感染症対策の講義と指導を行い効果をj得ている。
- 2) 管理病院である九州医療センターと連携を取り、他医療機関では受け入れが困難な感染症患者を ICT の協力を得ながら、できるだけ早期に転院を受け入れており、管理病院より、高く評価されている。

5. 病棟の取り組み

- 1) 障害者病棟・精神科病棟（認知症）・療養病棟・認知症デイケアの部署において家族教室を実施し、疾患や治療・介護方法・接し方・公的サービスの利用法の講演や家族間での意見交換を行っている。
- 2) 精神科病棟（認知症）・療養病棟・認知症デイケアの部署において、部署における日常の様子を広報誌で家族にお知らせしている。

6. その他研修の受け入れ

- 1) 看護師の育成のために、看護学生の実習を3施設（九州国際看護大学・純真学園大学・博多高等学校）より受け入れを行っている。
- 2) 地域の中学校・高等学校からの職場体験を受け入れ、出前授業を行っている。
- 3) JICA（独立行政法人国際協力機構）より海外（インドネシア・フィリピン）からの高齢者医療・看護の視察受け入れを行っている。
- 4) リハビリテーションの学生実習を7施設（麻生リハビリテーション大学校・福岡国際医療福祉学院・熊本保健科学大学・柳川リハビリテーション学院・国際医療福祉大学・九州保健福祉大学・西九州大学）より受け入れを行っている。
- 5) 医師の育成のために、新医師臨床研修制度に伴う、協力型臨床研修病院として、福岡赤十字病院・大分赤十字病院研修医の臨床研修を受け入れている。研修分野は、地域医療で、平成29年度7人受け入れ予定。

平成29年度 今津赤十字病院 研修医一覧表

期 間	研修医所属病院
平成29年6月1日～ 平成29年6月30日	福岡赤十字病院
平成29年7月1日～ 平成29年7月31日	福岡赤十字病院
平成29年8月1日～ 平成29年8月31日	大分赤十字病院
平成29年10月1日～ 平成29年10月31日	福岡赤十字病院
平成29年12月1日～ 平成29年12月31日	福岡赤十字病院
平成30年2月1日～ 平成30年2月28日	福岡赤十字病院
平成30年3月1日～ 平成30年3月31日	福岡赤十字病院